

## 研究課題名

三類感染症起因菌を対象とした検査法の構築および分子疫学解析手法に関する研究

## 研究の概要

三類感染症起因菌の中でも、特に腸管出血性大腸菌と赤痢菌を対象とする。

腸管出血性大腸菌を原因とする感染症・食中毒は、都内では年間400名程度の患者が報告されている。多くは散発患者として届けられるが、共通の感染源（食品）によって引き起こされる散発的集団発生であることも少なくない。散発的集団発生を早期に発見し、感染拡大を防ぐためには分子疫学解析が有効な手段であると考えられている。

本研究では腸管出血性大腸菌O103、O121、O145などを対象に分子疫学解析手法の検討を行う。また、赤痢菌を対象に分子疫学解析を実施し、患者情報（年齢、性別、家族内感染の有無、海外渡航歴等）と併せたデータベースの構築を試みることを目的とする。

## 研究期間

令和3年度から令和5年度まで

## 研究機関の名称及び研究機関の長

東京都健康安全研究センター  
所長 吉村 和久

## 研究責任者の氏名

微生物部食品微生物研究科  
小西 典子

## オプトアウト

「保有個人データの研究使用の停止申請」により当研究から除外が可能である。